



町のわだい

今月の題字 金山 景斗君 (山田小6年)



上達願い児童生徒が書き初め 筆先に意識集中し課題に挑戦

1月6日、町中央コミュニティセンターで町教育委員会と山田書道会(後藤清郎会長)が主催する「やまだ新春書き初め・百人一首かるた大会」が行われました。日本の伝統文化に触れる新春の行事に、町内の児童と山田高校書道部ら10人が参加。書き初めでは、同会の会員らから「トメ」「ハネ」「ハライ」など基本的な筆使いの指導を受けながら、筆先に意識を集中させ課題に取り組みました。初めて参加した大川紗矢さん(山田小2年)は「筆の使い方が難しかったけど、思っていたより上手にできてよかったです」と満足気な表情を受かべていました。

織笠地区で小正月行事の「なごみ」 鬼たちが家々を回りひと暴れ

1月15日夜、織笠地区では小正月の伝統行事「なごみ」が行われ、恐ろしい表情の鬼たちが家々を回りました。教育振興運動織笠地区実践協議会(昆尚人会長)が地区の良き風習を伝えていこうと、毎年行っているもので、会員ふんする鬼が地区内の小さい子どもがいる家庭でひと暴れました。「言うごどを聞かぬえワラスは連れでぐぞ」と、突然の鬼の乱入に血相を変え親や祖父母にしがみつくと子どもたち。中には「ごめんさい。言うごどを聞きます」と何度も泣き叫ぶ様子も見られ、子どもらにはありがたくない伝統の一夜になったようです。



織笠の石崎太郎さんが100歳に 同居のひ孫らも温かく祝福

1月1日に石崎太郎さん(織笠)が100歳の誕生日を迎えました。5日には佐藤信逸町長が自宅を訪れ「これからも元気で長生きしてください」と、賞状を手渡しました。北浜町出身で、若いころは父親と船大工をしていた石崎さん。体調の関係から海苔やホタテの養殖漁業を始め、自ら造船したサツパ船も使いながら操業してきました。一から始めた養殖漁業は困難も多い反面、「ホタテが大きく育っていると嬉しくてね」と喜びも大きかったと当時を振り返ります。自宅には同居するひ孫たちが作成した横断幕が飾られ、温かい祝福を受けていました。

